

第2回 社会教育委員会議 議事概要

1 議事

- (1) 協議事項：【協議テーマ】今後の協議の方向性について
- (2) 報告事項：第3次札幌市生涯学習推進構想の実施状況について
- (3) その他

2 日時

令和元年(2019年)11月22日(金)10時～12時

3 場所

S T V北2条ビル4階 教育委員会会議室

4 出席者

(1) 委員(9名)

一戸委員、臼井委員、佐久間委員、鈴木委員、辻委員、土田委員、原田委員、安田委員、山口委員

(2) 事務局(6名)

鈴木生涯学習部長、中目生涯学習推進課長、小柳生涯学習係長、山田推進担当係長、田淵職員、森戸職員

5 開催形態

公開(一般傍聴者1人)

6 会議内容

(1) 協議事項：【協議テーマ】今後の協議の方向性について

ア 事務局提案

事務局から、資料1「今期(R01～02年度)社会教育委員会議の協議テーマ(事務局案)～協議の方向性及び協議テーマの文言(タイトル)について～」のとおり、前回会議を振り返りつつ、今後の協議の方向性、協議の流れ、協議テーマの文言について提案した。また、事務局から、資料2「今後の会議スケジュールについて」のとおり、次回以降の会議のスケジュールについて提案した。

イ 合意事項

- ・協議の方向性及び協議の流れについて、基本的には事務局の提案どおりで進めていく。ただし、「見据えつつ」「災害に強い地域づくり」の二か所について

は、ニュアンスに留意する（「見据えつつ」→「目標に」、「災害に強い」→「災害に向き合う」程度に変更）。

- ・協議テーマの文言は「地域課題に向き合う社会教育～災害に強い地域づくりを例に」をベースとし、提言書の完成までに確定版のタイトルを決めることとする。特に、「災害に強い」という箇所についてはより柔軟性のある表現を検討することとする。

⇒当面は、臼井委員より提案のあった「地域課題に対応する社会教育～災害と向き合う地域づくりを例に」をテーマとして掲げることといたしたい。

ウ 次回会議の検討（調査）事項

- ・札幌市における地域防災の現状の把握について
- ・他都市における地域防災の取り組みについて

○主な意見・質疑応答は以下のとおり。

<協議の方向性について>

- ・昨年の胆振東部地震の印象が強いため、地震が念頭にあるような気がするが、災害対策を考えるのであれば、地震のほかにも水害や雪害等、より広い視野が必要と感じる。また、防災（災害対策）の取り組みについては、市内に限らず広く事例を見る必要があると考える。（臼井委員）
- ・協議の方向性について「様々な課題に対応可能な地域」というものはゴール地点であるため、「見据えて」というよりは、「目標に」程度のシンプルな表現が適していると思う。（臼井委員）
- ・防災に関しては別の専門部署（消防局）があるため、社会教育側だからできるアプローチを協議するというのを強く念頭に置く必要があると思う。（原田委員）
- ・地域の中には防災や災害に興味のない方々も居るかもしれないが、地域づくりというところであれば興味を引けるように思う。（安田委員）
- ・札幌の地域特性（都市部であること、観光客や外国人が多いこと等）を鑑みると、胆振東部地震のことを学ぶだけでは、札幌でのケースを想定しきれないものが多いと感じる。（辻委員）
- ・災害が発生すると地域での課題が浮き彫りになることがある。他都市における災害発生時の事例を見つつ、日本ではこれまでどのような経験がされてきたかを学

びながら考えていくといいのではないかと思います。（辻委員）

<地域づくりについて>

- ・防災は様々な方に共通するテーマであるため、それをきっかけに住民が集まり地域の力が強くなればと思う。（一戸委員）
 - ・災害に関して、普段は町内会活動に参加していないような方であっても、SNSでの情報発信を通じて、良い意味で盛り上がったということをテレビでみた。このように、地域の中にもざっくばらんにお話ができる場があれば、それが防災に繋がるように思える。（山口委員）
 - ・サタデースクールの視察へ行ったが、一人で行ってみんなで集まれる場があるといいと感じた。学校に限らず、何かがあったらここで集まろうというような仕組みを整えればいいのにとと思う。（一戸委員）
 - ・社会教育行政は地域での活動にあまり参加されない方々に対して、どのようにきっかけづくりをすべきか、世代間交流を少しでも担保できないか、地域住民同士が地域にどのような人が住んでいるかを把握し合える方法はないか、地域住民同士が（地形的なことも含め）地域特性をどのようにして学ぶか。この四点を踏まえながら今後の議論ができればと思う。（鈴木委員）
 - ・災害の発生により地域の課題が浮き彫りになるという点でいうと、災害を考えることは地域を繋ぎ直すいいチャンスであると捉えることもできると思う。（辻委員）
 - ・地域づくりについて、道行く見知らぬ人と話をしてはいけないということが大前提になってしまっていて困惑している。近所の人であっても、大人たちは道行く小学生らに対して過剰に気を使っているように思う。近所だけでも挨拶をしあえるような日をつくり、顔見知りが増えるような環境を整えることができれば、それが一番の防災になるのではないかと思います。（山口委員）
- ⇒子ども食堂の講演等の際に、子どもたちのために何かをしたいが何をすればいいかわからないという方がいることがある。その際には、まずは挨拶から始めてくださいという話をしている。大人の方には下手に挨拶をすると通報されてしまうと考えている方が多いが、「防災」といワードと絡めて、そうした意識を変えていくことができるかもしれない。（安田委員）
- ⇒挨拶の話に関して、お互いの顔を見えるようにするというところは、お互いに

対して敬意を持って接するということが基盤になると思う。そうしたところまで今後の協議の中で話し合えればと思う。（原田委員）

- ・災害局面を通して考えることで、札幌という地域の見え方が少し変わってくるかもしれない。（辻委員）

<コミュニティについて>

- ・世代によってコミュニティが分断されているような気がする。（安田委員）
- ・行政から見えていないコミュニティや繋がりについて、何らかの方法で可視化してアプローチする方法はないだろうか。（原田委員）
- ・情報発信力が強く、SNS 等で災害対策についての情報を発信・拡散しているような人々が居るが、そうした人々の中には意外と現状の地域づくりには参加していないような層も含まれているのではないだろうか。そうした層に目を向ける必要があるかもしれない。（原田委員）

<協議テーマの文言について>

- ・事務局提案のうち三番目（「地域課題に向き合う社会教育～災害に強い地域づくりを例に」）が、社会教育ということをお忘れしないようなタイトルでいいと思う。（土田委員）
- ・同じく三番目が良いと思うが、「災害に強い」という表現が気になる。災害に対しては、人間は太刀打ちできない部分もあると思うし、ある程度柔軟性を出せるような言葉にできればと思う。（鈴木委員）
- ・「災害に強い」というところについては、災害とどう生きるか、というイメージの方がいいと思う。（辻委員）
- ・地域課題は災害だけではないという意味で、三番目が良いと思う。（山口委員）
- ・三番目が良いと思うが、辻委員と同意見で、「災害に強い」という表現についてはもう少し柔らかい言い方がいいと思う。（安田委員）
- ・災害はあって当然だと思うし、災害が何度来てもリカバリーを地域できるようなことを目指すイメージかと思う。うまい言葉は思いつかないが、社会教育が全面に出ているという点でも、三番目が良いと思う。（原田委員）
- ・地域課題に向きあうというところが大きなテーマであることを考えると、三番目が適当と思う。（山口委員）
- ・他の委員からも出されているように、「災害に強い」という言葉には力比べのよ

うな感じがする。それだと、インフラ整備を強化すればいいのかというような方向に流れがちになると思う。自分としても三番目が良いと思うが、例えば、「災害に強い」を「災害と向き合う」、「地域課題に向き合う」を「地域課題に対応する」と言い換えて、「地域課題に対応する社会教育～災害と向き合う地域づくりを例に」という形にしてもいいのではないかと。災害が発生することを前提としたうえで、我々がどう対応するかということが一番大事だと思うので、このようなニュアンスかなと感じている。(臼井委員)

⇒協議テーマの文言に関する意見については、一旦このような形で事務局へお返しして、最終的に報告書ができるときまでに確定版のタイトルを決めていくということよろしいか。(佐久間議長)

⇒その形で大丈夫である。(中目課長)

⇒三番目の案を軸とし、「災害に強い」という箇所についてももう少し柔らかい表現に修正したものを仮タイトルとさせていただきたい。(山田係長)

〈その他〉

- ・学校が避難所になる例は多いが、普段学校に出入りしていなければ学校の設備のこと(トイレ等)すら分からない。その点、PTAは学校への出入りの機会が多く、その一方で地域についても分かっているという面もあるため、避難所運営の際には力を発揮しなければならないと思う。(土田委員)
 - ・自分で判断して自分で行動するということは、これからの子どもたちにとって非常に重要なことと思う。その意味では、防災を掲げつつも青少年教育の方面にもつながる議論になるように感じる。(佐久間議長)
 - ・防災というと、考えて行動するというよりは発生時にとっさにどのような行動をとれるかという方が重要に感じる。いかにしてとっさの行動レベルまで知識や情報を落とし込めるかが一つの課題になると思う。(臼井委員)
 - ・地震の際に流れてくるフェイクニュースに危険性を感じている。行政からSNSを通じて正しい知識・情報を届けられるような場面が増えればと思う。(安田委員)
- ⇒フェイクニュースを流させない仕組み作りをすることも大切かもしれないが、そうしたものがあつたことを前提として、正しい情報を見極める力を身につけさせる必要があると思う。(佐久間議長)

⇒災害発生時のフェイクニュースは絶対に避けられないものだと思う。フェイクニュースを前提とした情報教育のようなものは社会教育と親和性が高いという気がする。（原田委員）

(3) 報告事項：第3次札幌市生涯学習推進構想の実施状況について

事務局から、資料3「第3次札幌市生涯学習推進構想（平成30年度実施報告）」を用いて、平成30年度に実施した第3次札幌市生涯学習推進構想（以下、「3次構想」と呼ぶ。）について説明を行った。

○主な意見・質疑応答は以下のとおり。

・学校図書館活用事業が重点施策として指定されているが、年々予算が減らされているという話を伺った。重点施策とは、具体的にどのようなことを以て重点としているのか。（原田委員）

⇒3次構想では、第2次札幌市生涯学習推進構想（以下、「2次構想」と呼ぶ。）の総括で明らかになった生涯学習に対するニーズを踏まえて、三つの基本施策を定めている。その基本施策を基に施策を展開しているが、重点施策はこうして展開された施策の中でも、2次構想の検証を踏まえて特に重要と考えられるものを三つ選定したものである。（小柳係長）

⇒重点施策は他に展開された施策と比較して人的資源や予算が割かれている分野という理解でよろしいか。（原田委員）

⇒人的資源と予算がきれいに比例するというわけではないが、重点的に進めることで、基本施策や目指す姿を効果的に実現できるという考えである。（小柳係長）

⇒2次構想と比較して力を入れているということだろうか。（原田委員）

⇒2次構想の総括を踏まえたうえで、3次構想の目指す姿を実現するためにということである。（小柳係長）

⇒承知した。（原田委員）

(4) その他

○事務局から、次回の会議では災害に関する取り組みの現状把握を予定しているため、事前に事務局に用意してほしい資料や情報についての希望があれば伝えて欲しい旨、説明を行った。

○次回の会議は、令和2年1月31日（金）に開催予定である。